



一度きりのこの仲間と

足音

一〇月十四日
石巻中一年
学年通信No.三〇
編集・発行
鈴木 孝明

美しくあるく

八木重吉

こどもが
せっせっ せっせっ
とあるく
すこしきたならしくあるく
そのくせ
ときどきちらつとうつくしくなる

今、合唱コンクールの練習期間真っ最中であり、一年生も初めての合唱コンクールへ向けて各クラス熱心に取り組んでいます。

まだまだ歌声が不安定な一年生。昨日とれてきた音が今日とはとれていなかったり、数フレーズ他のパートにずっとつられてしまっていたりと、どのクラスもまだまだ伸ばしていく要素がたっぷりとあります。

その中でも、あるフレーズ、ある瞬間に美しいハーモニーを響かせることがあります。ときどきちらつと。

そんな時、

(中学生の合唱ってやっぱりいいな)

とつくづく思います。

昨年は、コンクールという形ではなく、学年ごとの合唱発表会でした。その前の年は行われませんでした。歌うことすらほぼ禁じられていました。

その二年間を経て、ようやく合唱コンクールが開催されます。まだ、全校生徒が一堂に会して行うことはできませんが、それでも、ようやくの合唱コンクールです。体育館を会場として、人前で歌うことができます。貴重な機会です。どのクラスも、自分たちの姿を歌で示す最高の舞台にしてほしいと思います。

木曜日には一年生のリハーサルが行われました。久しぶりに学年で一堂に会しました。そして、あなたたち学年としての歌声を初めて聴きました。また一つ大切なものが始まったなど、少し感慨深いものがありました。

また、リハーサルは他のクラスの合唱を知ると同時に、人前で、そして体育館で歌うこと、その独特の感覚を知ったことでしょう。い



つもは聞こえてくる仲間の歌声が、遠く、小さく感じたことでしょうか。そういうものです。歌声を「響かせる」ことは、難しいことです。だからこそ、一人の歌の確かさが求められます。みんなでの練習を大切にするのはもちろん、個々の練習、その成長が必要となります。

今の時代は本当に便利です。曲のタイトルを打ちこめば、すぐに音楽が流れてきます。きっとパート別で用意された楽曲もあります。家で個人練習はいくらでも積めるわけです。私も担任の時には、クラスの合唱曲を全パート正確に歌えるよう、通勤の車内で何度も何度も練習している不審な人に見えたことでしょうか。

そういった個のがんばり、集団としてのがんばりを積み上げて、二十七日、合唱コンクール本番に、再び集いましょう。一回きりのこの仲間との合唱コン。堂々と、「私たちの歌声よ響け」と胸を張って。

何度も言うように、中学生の合唱って本当にすてきなことができます。学年の、そしてクラスの歌を響かせていこう。

